

トルコ サクランボの主産地で甚大な霜の影響

[FreshPlaza](#) 2025年5月21日

「トルコのサクランボ主産地であるアフィオン県で甚大な霜の影響」

トルコの青果物輸出業者アラナール社の商業コーディネーターであるイギット・ギョキギット氏は、トルコのサクランボ生産者が忍耐を強いられた(今年これまでの)降霜は、今シーズンに大きな影響を与えるだろうと述べている。同氏は、「今年の降霜は、トルコではここ数年で最悪の農業災害だ。ほぼ全国に影響を及ぼし、産地に衝撃を与え、一度ならず、2月、3月、4月と合計3回発生した。一部の地域では、被害が指数関数的に拡大した。農業上の最初の降霜被害は、2月にアダナ、メルスィン及びハタイの各県で発生し、その後3月にはエーゲ海地方が被害を受けた。4月中旬には、全国規模の降霜がこれらすべての地域で2回目かつ一層深刻な被害を引き起こした」と語る。(以下「」は同氏の話)

同氏は今シーズン、トルコのサクランボ輸出がすべてなくなるとは考えていない。「輸出可能な品質のサクランボが、特にイズミルとマニサの両県(エーゲ海地方)で入手可能である。残念ながら、我が国のサクランボの主産地であるアフィオン県(同)は深刻な影響を受けたため、そこから輸出できるサクランボの量は非常に限られるだろう。輸出に関してトルコ政府が介入するという話は何も聞いていないので、輸出可能なサクランボがある人はそれを輸出することができるだろう。」

状況は来週収穫が始まるZ-900品種の価格に大きく左右されるとして、同氏は次のように説明する。「トルコのサクランボの出荷シーズンは既に早生品種から始まっている。現在は入手できる量が限られているため、生産者価格は極めて高い。今から1週間後には、トルコの主要品種であるZ-900の出荷も始まる。シーズンの成功にとってZ-900品種の価格は非常に重要だが、これまででない高値になる可能性が高そうだ。」

トルコ産の出荷量の不足が生み出す品薄を、スペイン産が埋める可能性がある。「スペインはヨーロッパ市場におけるトルコの主要なライバルであり、ヨーロッパで失われたトルコ産の穴を埋められるかも知れない。ロシア市場では、今シーズンのトルコ産の不足のため、ウズベキスタン産のチャンスとなる可能性がある。今シーズンは例年に比べて輸出量が限られると思う。出荷シーズンは短くなり、おそらく6月末に終わるだろう。イズミル、マニサ両県のサクランボが終了した後は輸出できる量はそれほど多くないだろう。」

執筆者: ニック・ピーターズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

米国 生鮮リンゴの貯蔵量が5月の5年平均を19%上回る

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月22日

USApple Tracker のレポート(米国リンゴ協会)によると、5月の生鮮市場向けリンゴの貯蔵量は5,230万ブッシェルで、これは昨年2024年5月に報告された在庫より2%少ないが、5月の5年平均より19%多い。(米国リンゴ協会のレポートでは 1ブッシェル=42ポンド(約19kg))

同レポートはまた、加工用リンゴの貯蔵量は2,010万ブッシェルで、前年同月に報告された在庫量より12%少なく、5月の5年平均より9%多いことを示している。

ワシントン州は最も貯蔵量が多く、合計1,459万9,396ブッシェルのリンゴが通常大気貯蔵庫で保管されており、4,687万5,842ブッシェルがCA貯蔵庫で保管されている。ニューヨーク州は第2位で、通常大気貯蔵庫で合計157万9,597ブッシェルが保管され、389万1,644ブッシェルがCA貯蔵庫で保管されている。ミシガン州とペンシルベニア州がこれに次ぐ。

貯蔵されている主な品種は、レッドデリシャス 1,043万4,547ブッシェル、ガラ 1,036万3,435ブッシェル、グラニースミス 856万2,985ブッシェルである。これら上位3品種に、ピンクレディー/クリップスピンク、コズミッククリップ及びふじが僅差で続いている。

同レポートは、全米のリンゴ貯蔵容量(ブッシェル)の95%以上を捕捉している。